

1・2月の休診日：毎週日曜・月曜、1/1(水)、2(木)、3(金)、14(火)、2/11(火)、25(火)

## 在宅医療について

内科医 金城元氣

新年あけましておめでとございます。皆様には穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。新年最初は「在宅医療」についてお話いたします。

「在宅医療」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか？在宅医療で最終的に目指すところは、自分の生まれ育ったシマ・自宅の畳の上で最期を迎えるということです。現在、日本政府は、在宅医療の推進を重要な医療政策として掲げています。

1950年代は自宅で亡くなるのが当たり前だった時代の医療機関が増えるにつれ、1975年ごろには、自宅と医療機関で亡くなる方の割合は半々になっていきました。その後も、自宅で亡くなる方は減少を続け、2005年頃は、医療機関など自宅以外で亡くなるものが多くなり、自

宅で亡くなる方が最も少なくなりました。現在は、政府が在宅医療について政策を掲げ、少しずつ自宅で亡くなる方が増えてきている状態です。

では「在宅医療」とは何をするのでしょうか。在宅医療と一口に言っても、訪問診療、訪問看護、薬剤師訪問など自宅に居ながらにして医療を受けることが出来る全般のことを言います。今回はその中でも、訪問診療、訪問看護についてのお話です。訪問診療とは、医師が定期的に自宅へ訪問し、診察を行います。その際に必要な薬を処方、必要に応じて検査を行います。久米

島では訪問診療を受けている患者様は月に1回、自宅で診察を受けています。しかし、末期がんの方や老衰などで具合が悪くなったり、亡くなる時期が近づいているときなどは必要に応じて、週に何度も訪問したりして、診察、治療、苦しまずに最期の時を迎えられるように薬剤の調整を行ったりすることもあります。この時にかかせないのが「訪問看護」です。訪問看護は、医師とは独立して毎日自宅に伺い、患者様の状態を把握し、看護ケアを行い、状況を医師に報告・連携しながら在宅医療の重要なチームとして機能しています。周りに在宅医療が必要な方がいましたら、いつでも当院へご相談ください。

## 言葉のチカラ

シリーズ①

### 「読むチカラ」について

小児科 渡邊 幸

あけましておめでとございます。2020年は「こぼれ」が子どもを育くむ力について様々な分野からお話ししていきたいと思えます。

今回は11月に行われた小枝達也先生の講演会の内容も踏まえて「読むチカラ」について。

### ①「読むチカラ」とは

日常生活の中で出てくる言葉というのは「宿題した?」「ご飯の時間よ」など、実はとても限られています。本を読むようになるると、限られた言

語の世界から一瞬で言葉の宝箱のような未体験の世界へ移動できます。その時の情景や主人公の心情を「想像」しながら読むので、「読解力」の基礎ができます。また、知らない言葉も前後の文脈から想像できるようになり、言葉の数(語彙数)が飛躍的に増えていきます。「読解力」と「語彙数」は学習の基礎となるとも大事な要素です。

### ②「読むチカラ」はどうやってつく?

文字を学び始める幼児期には、1文字ずつ音に変換させながら(音韻処理)読むので逐次読みになります。それが、小学生になると、文章を単語のまとまりで読めるようになっていきます。私たちも文章を読む時、1文字ずつは読んでおらず、単語のまとまりで読んでいるのです。こうなると読むのがとても楽になってくるので、本を読むのが「好き」になります。この「ブック」に読めるというところが、初期の読書習慣のためにはとても大事なのです。

### ③「読み」が苦手な子って?

実は小学校に上がれば誰でも自然と「読む力」がつくというわけではありません。音韻処理の段階でつまづいている子が実は6〜8%程度いることがわかっています。しかし「読み」が苦手な子はそれがバレないように、「教科書丸暗記」「騒いで授業妨害」などの方法で、スラスラ読めないうことをカモフラージュします。日本の学校では「読む力」を客観的に評価する方法がなかったのもあり周囲の大人はそのことに気づきません。小学校1〜2年生まではどうかごまかしながら授業に参加しますが、小学3年生になり学習の内容が複雑化する時期に、「学習困難」「登校しぶり」として現れてくるのが実はとても多いのです。

小枝先生は、そのような子に対する効果的なトレーニング方法を考えてきました。それについては次回書いていきたいと思います。

